

令和5年度 第1回川崎市宮前市民館専門部会会議録（要旨）

日 時 令和5年7月14日（金） 10:00～12:00
会 場 宮前市民館 大ホール1階ホワイエ

出席者 部会長 川西 和子（調査モデレーター・分析・各種司会）
副部会長 山本 良子（宮前第4地区民生委員児童委員協議会 会長）
委 員 山本 太三雄（菅生分館利用者懇談会）
高久 實（宮前区全町内・自治会連合会 理事）
檜崎 光雄（市民委員）
當間 幸江（宮前区PTA協議会 副会長）
渡辺 美代子（宮前区文化協会 会計）
欠席者 丸尾 明彦（川崎市立西有馬小学校 校長）
事務局 宮前市民館 大木館長・徳原係長・齋藤主任・星野主任
菅生分館 田添分館長

会議の成立 委員8名中7名出席のため、成立

会議の公開・傍聴人 なし

次 第

- 1 宮前市民館長あいさつ
- 2 議事
 - (1) 報告事項
 - ア 宮前市民館・菅生分館の管理運営計画について
 - イ 宮前市民館・菅生分館の社会教育振興事業予算及び実施計画について
 - (2) 協議事項
 - ・ 今期の研究課題について
 - (3) その他
 - ・ 第2回宮前市民館専門部会の開催日程について

配付資料

- 資料1 令和5年度 補修工事予定一覧
資料2 令和5年度 宮前市民館 社会教育振興事業実施状況
資料3 令和5年度 宮前市民館菅生分館 社会教育振興事業実施状況

令和4・5年度 川崎市社会教育委員会議宮前市民館部会 委員名簿

(参考)

●宮前市民館だより

第247号(4月1日発行)、第248号(5月1日発行)、第249号(7月1日発行)

●菅生分館だより

第176号(4月1日発行)、第177号(5月1日発行)、第178号(7月1日発行)

●宮前市民館事業チラシ

- 「地元発見! スマホを持って旅に出よう」 シニアの社会参加支援事業
- 「今の自分をこれからにつなげるために ~30歳の自分史~」 成人教室事業
- 「夏休み子どもあそびランド2023 あそびの達人大募集」
- 「夏休み子どもあそびランド2023 サポーター大募集」
- 「夏休み子どもあそびランド2023 あそびランドをもっと楽しむサポーター養成講座」 多様な主体が参画する子どもあそびランド事業
- 「長崎被爆体験を聞いて平和を考える」 市民自主企画事業
- 「日本語ボランティア入門研修」 識字学習活動
- 「宮前親子学級」 家庭・地域教育学級
- 「ボランティアによる、無料スマホ相談会」(5月・6月・7月・8月) 現代的課題学習事業

●菅生分館事業チラシ

- 「認知症予防 コロナでなまった脳を元気に」 シニアの社会参加支援事業
- 「地域の大人が子どものためにできることを考える講座」 市民エンパワーメント研修
- 「菅生分館で「マナビ」のタネをみつけよう」 青少年教室事業
- 「赤ちゃん期の今だからできること きいてみよう! やってみよう!」 家庭・地域教育学級
- 「おしゃべりサロンすがお これからの予定」(4月~6月) 課題別連携事業
- 「おしゃべりサロンすがお これからの予定」(7月~9月) 課題別連携事業

●生涯学習情報誌「ステージアップ」 Vol.245、246

●川崎市市制100周年記念大判チラシ(宮前区版)

1 宮前市民館長あいさつ

2 議事

(1) 報告事項

ア 宮前市民館・菅生分館の管理運営計画について

令和5年度の宮前市民館、宮前図書館及び菅生分館の補修工事の予定について、資料1に基づき、徳原係長から説明を行った。

イ 宮前市民館・菅生分館の社会教育振興事業予算及び実施計画について

令和5年度の宮前市民館の社会教育振興事業の実施状況について、資料2に基づき徳原係長から、説明を行った。

(補足説明)

- ・昨年度はコロナで縮小していた部分もあったが、今年度は通常どおり実施していく。識字学習活動については2学期から保育も開始する予定で、障がい者社会参加活動のバスハイクも再開した。スマホ相談会については、5月からスマホボランティアも増えて活発になっている。
- ・子どもあそびランドは、昨年度はコロナ禍で事前予約制とし、人数を絞ったため、参加者が980人となったが、今年は人数制限を行わないため、賑わいが戻ると考えられる。

菅生分館の社会教育振興事業の実施状況について、資料3に基づき田添分館長から、説明を行った。

(補足説明)

- ・青少年教室事業については、「菅生分館でマナビのタネをみつけよう」という企画で、菅生分館の利用団体全てに声をかけて協力を募り、様々な体験講座を実施する。
- ・シニアの社会参加支援事業では、認知症予防をテーマとし、覚えた手品をこども文化センターで披露する取組を行った。
- ・市民館保育活動では、参考となるよう、菅生保育園の保育の様子を見学した。

(質疑応答)

當間委員

zoomのライセンスは持っているのか。

徳原係長

講師とのやり取りなど事業用に使っているものはあるが、不特定多数の人に使っていただけるものではない。

川西部会長

識字学級は、歴史的に大切な市民館の取組であるが、利用している外国人

市民はどのくらいいるのか。

徳原係長

金曜日の昼クラスには15名登録されている。主に対面で実施しており、zoom参加は3～4人である。講師は川崎市の研修を受けたボランティアであり、日常生活に困らないような日本語を一緒に学ぶ。先生と生徒という関係ではなく、母国の状況などを教えてもらっている。

川西部会長

ある程度通うと卒業になるのか。

徳原係長

続けたい人は続けることができ、居場所となっている。

川西部会長

市民館のロビーで行われているカフェの中に外国人が参加しているものがあると思うが、識字学級と連携しているのか。

徳原係長

国際おしゃべりサロンというカフェのゲストスピーカーとして関わっている識字学級の学習者もいる。

川西部会長

このように、学習者が発表する場があり、活動している人たちが講師の側に立つことは社会教育に必要である。菅生分館では、全ての利用団体に声をかけて青少年教育事業の講師になってもらったり、シニアの社会参加支援事業では、学んだ手品をこども文化センターで披露したり、市民館保育活動の参考となるよう菅生保育園の保育の様子を見学に行ったりするなど、職員が様々なコーディネートをして活性化しており、評価できる。

榎崎委員

識字学級の学習者の国籍はどこが多いのか。

徳原係長

アジア圏や米国が多く、コロナ禍で中国からの人は減っていた。5月過ぎから問い合わせが増加しており、コロナ前の状況に戻ってきている。

榎崎委員

識字学級の学習者の年齢はどのくらいか。

徳原係長

昼のクラスでは、幼稚園や保育園、小学生の子どもがいる30～40代が多く、夜の学級はもう少し年齢層が高い。

山本太三雄委員

日本語学級はやっているのか。

徳原係長

識字学級の中でやっている。

山本太三雄委員

さきほど話に出た市民館のロビーカフェは社会教育振興事業の一覧表に載っていないが、どうしてか。

徳原係長

市として予算化していない自立した活動は、社会教育振興事業に載せていない。

川西部会長

中高生はボランティアとして、市民館に関わっているのか。

徳原係長

夏休み子どもあそびランドのボランティアや「達人」など、中高生も市民館のイベントに参加している。つながりを保ち、新たな力が根付いていくように育成したい。

川西部会長

手を離さずに、継続して、市民館に関わる中高生を見守りながら声をかけていくことは大切である。

渡辺委員

宮前区文化協会では、夏休み綾子講座として、子どもたちに生花、三味線、着付け、ハワイアンリボンレイなどを教えるが、菅生分館の高齢者向けセミナーの講師として協力するような声かけをしてもよいか。お互いの活動の参加者が増えるきっかけになるといいと思う。

田添分館長

今後、連携した取組が実施できたらいいと思う。

高久委員

向丘出張時の稼働率は40%で、まだ空きがある。向丘出張所の活用の観点からも、スマホ講座以外のものも、是非やってほしい。

徳原係長

向丘出張所と相談しながら、人材育成の連続講座を行いたいと考えている。ロビーカフェを図書館と連携して行う企画もあり、市民館としても、まちに出るような取組をこれからも進めたいと思う。

檜崎委員

スマホ教室は色褪せて感じる。チャット GPT や生成 AI に触れるような講座もあるといい。

徳原係長

スマホ講座は、スマホボランティアの活動家の場となっており、定員が埋まるくらいの申込があつて需要がある。もちろん、先にも目を向けないと遅れてしまうこともあるので、留意したい。

山本良子委員

講座などの参加者の地域的な統計はあるのか。野川地区の人たちから、市民館には興味がないと言われたことがある。宮前市民館から遠いところでも、集まって何かできる場所があるといいのだが。

徳原係長

たしかに宮前市民館の利用者は、土橋、宮前平、宮崎、神木、鷺沼の人が多く、向丘地区の参加は少ない。例えば、野川いこいの家などでの出前講座は実現できると思う。

當間委員

野川中の近くに住んでいる。有馬・野川生涯学習支援施設の駐車場が少ないので車では行かれず、小杉行きバスに乗ればアクセスがいいので、中原図書館を利用している。

田添分館長

宮前区内にこだわらなければ、橋分館へのアクセスの良い地区もあるのではないか。

山本太三雄委員 7月16日になかはらっぱ祭りに行ってみた。グランツリー内にも展示があり、中原市民館に人を呼び込んで、とても賑わっていた。鷺沼に移転して、同じようなことができるのか。

川西部会長

市民館へのアクセスが難しい地域があるので、出前という発想は大切だ。

徳原係長

中原市民館の講座には、野川の住民からの申込は多く、他区の市民館や分館の講座などに参加することはできる。

大木館長

有馬・野川生涯学習支援施設では、昨年度初めて、野川小学校の体育館でアウトリーチ講座を行ったところ、130人の参加があり盛況だった。

(2) 協議事項

市民館だよりの改訂に向けて、プロジェクトチームでの検討を踏まえて作成した9月号1面の構成案を基に意見交換を行った。

(質疑応答)

徳原係長

市民館だよりの構成案については、プロジェクトチームの意見を踏まえて表紙のレイアウトを変更したので、ご意見をいただきたい。

川西部会長

1面に見出しがあり、まとまっており、2ページ目以降のページに誘導できるので良いと思う。

檜崎委員

講座名の文字を大きくし、日付を小さくするなど、主従のバランスをよくしてほしい。さらに、対象者が明確になるといいのではないか。

高久委員

文字がぼんやりして見にくい。色を変えるか、もう少し濃くならないか。

大木館長

色は宮前区のロゴに使われていることから、青になっている。年間契約なので、年度の途中で色を変えたり、2色刷りにしたりするなどの変更は難しいが、より濃くすることは可能性かと思う。9月号の校正をメールで共有して意見をいただき、必要に応じて集まって話し合い、可能な部分を反映して編集作業を進めてはどうか。

齋藤主任

初校と今後の校正スケジュールを7月末までにメールで送るので、御意見をいただきたい。

(3) その他

第2回宮前市民館専門部会は、9月20日(水)10時から開催する。